

## 草刈りの基本的な考え方

維持管理の段階で希少植物に影響を及ぼす可能性があるのは主に草刈りである。奄美大島、徳之島においては、自然公園外の道路沿いなどでも希少植物が生育している場合があり、注意が必要である。そこで、草刈りについては、以下のように基本的な考え方を示す。

草刈りの実施にあたっては、通行の安全は確保したうえで、実施可能な配慮を行う。また、必要に応じてアドバイザーと連携して環境配慮を行う。

### <アドバイザーの概要>

- ・ 地域の自然環境に詳しく、現場での相談・確認を依頼できる人として、「奄美大島・徳之島 公共事業における環境配慮指針」に基づいて登録された人材
- ・ アドバイザーは、事業部局の依頼により、事業実施地の現地確認（半日～1日程度を想定）や環境配慮の対象・方法等に関する助言を行う
- ・ 事業者はアドバイザーの助言を参考にして、実施可能な環境配慮を行う

### ①アドバイザーの助言を得る。

現地確認によりアドバイザーから助言を得ることを原則とするが、アドバイザーが現地確認不要と判断した場合（アドバイザーが現地の状況を詳細に把握している場合など）は現地確認を行わず、必要な助言を得るのみでもよい。

### ②草刈りの実施にあたっては、アドバイザーの助言により、主に以下の配慮を行う

#### A.草刈りの実施時期の配慮

希少植物の生育地においては、できる限り影響が生じにくい時期（例えば地上部がない時期など）に草刈りを行う。

#### B.草刈りに使用する道具の配慮

草刈り機を使用する場合は、植物に影響の少ないアタッチメント（金属製の刃）を使用する。ナイロンコード及びそれに類するアタッチメントは、植物を抜いてしまうリスクがあり、希少植物に対して影響が大きくなることがある。そのため、できるだけ金属製の刃を用いて、根が残り、再生できるよう配慮する。

#### C.草刈りの方法の配慮

生育する希少植物の特性に応じ、草刈りの方法を配慮する。

特に希少な植物が生育している場合は、事前に希少植物にマーキングを行い、草刈りの際に刈らないようにする方法が有効である。国立公園の特別保護地区・第1種特別地域、アドバイザーが重要であると判断した場所など、希少植物の生育が高い場所においては、10cm程度の高さで草を刈る高刈りによる方法も有効であるが、この方法の場合、草の成長が早いため、道路の安全上の問題がないように実施することが重要である。

なお、草刈りを行った方が生育に良い明るい環境を好む希少植物もあることから、種ごとにアドバイザーの助言を得ながら対応する。

#### D.刈った草は適正な処分

刈った草に外来植物が含まれている場合、その外来植物の葉、根及び種子等が飛散すると、そこから新たに外来植物が繁茂する可能性がある。外来植物が含まれる刈った草については、適切な処分に努めるとともに、一時仮置き時や運搬時にシートを被せるなどの飛散防止に努めることが望ましい。

#### E.可能な限り除草剤は使用しない

除草剤は、短期間で広範囲の植物を枯らすことができるものであり、希少植物にとっては非常に大きな影響となる可能性があるため、希少植物への影響を考慮し、使用しないことが望ましい。ただし、外来植物の駆除などのために、アドバイザーの助言を得ながら使用する場合には、この限りでない。

#### F.作業員への周知と報告

配慮対象種の中でも特に保全重要性が高い希少植物の生育の可能性があるとアドバイザーが判断した場合には、あらかじめ作業員に写真等により周知しておき、環境配慮の意識を持ってもらう。これにより、新たに希少植物が発見された場合には発注者へ報告し、発注者は必要に応じてアドバイザーに相談する。

#### **【発注者・請負者・作業員】草刈りを行う時の心がまえ**

- ・ 事業が終わった後は引き続いて維持管理のための作業が行われますが、その中で、最も環境への影響が考えられるのが「草刈り」です。
- ・ 「草刈り」は植物を取り除く作業なので、希少植物が混ざっていることに気付かず作業を行うと、これらは失われてしまいます。
- ・ このようなことを避けるために、草刈りを行う時の心がまえとして、「草刈りの基本的な考え方」を作っていますので、これをよく理解して、作業に取り組みましょう。
- ・ 発注者はアドバイザーと呼ばれる専門家の方に、必要に応じて草刈りの方法について相談しましょう。
- ・ アドバイザーが草刈りの方法について教えてくれますので、このとおりに草刈りを行いましょう。
- ・ 気をつけなくてはいけないこととは、草刈りを行う時期、道具、方法、切ってはいけない植物の確認、刈った草の処分方法です。
- ・ 外来植物の生育範囲の拡大を防ぐためにも、アドバイザーから助言を得るなどして、刈った草は適切に処分しましょう。
- ・ これらは、場所によって異なるため、状況に応じて対応する必要があります。
- ・ そのため、アドバイザーの方の指示に従う必要があります。